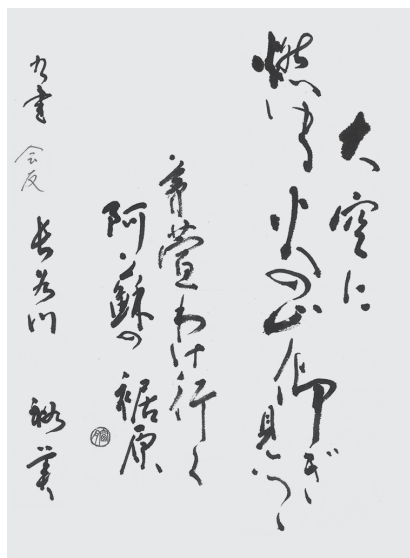


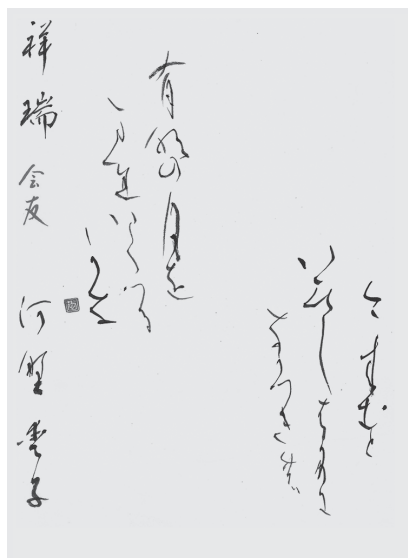
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



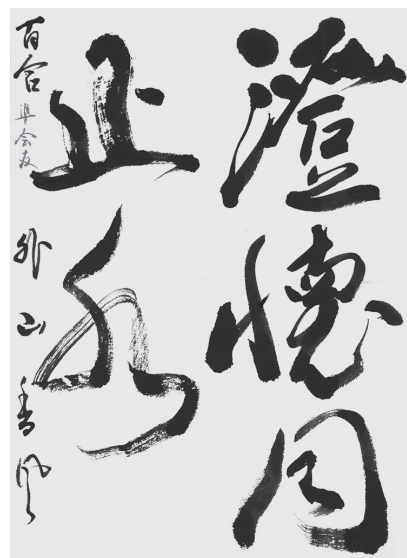
九書 長谷川 裕美 線と造形の流動美。二行目の文字の中心移動をさせながらの行の振幅の変化が独創性あり、表現豊かな作となる。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな半紙】



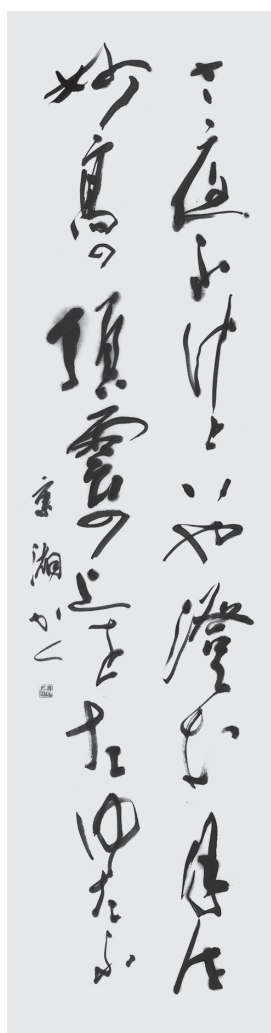
祥瑞 河野 愛子 漢字と仮名がよく調和し、練度の高い線に深い豊かさが感じられる。上下の広い余白が、日本の情趣を思わせてくれる作品。
(審査評 岩浪 春鳥)

【漢字半紙】



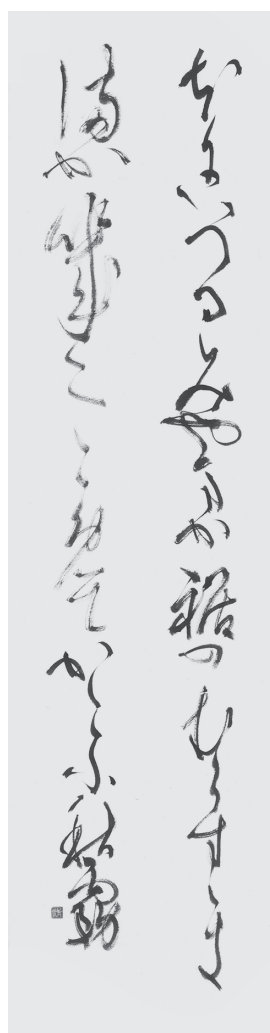
百合 外山 香風 懐広く氣宇壮大、潤渇肥瘦豊かにして緩急自在に筆を走らせ場中第一。墨色と余白が織りなす調和が美しい快作。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



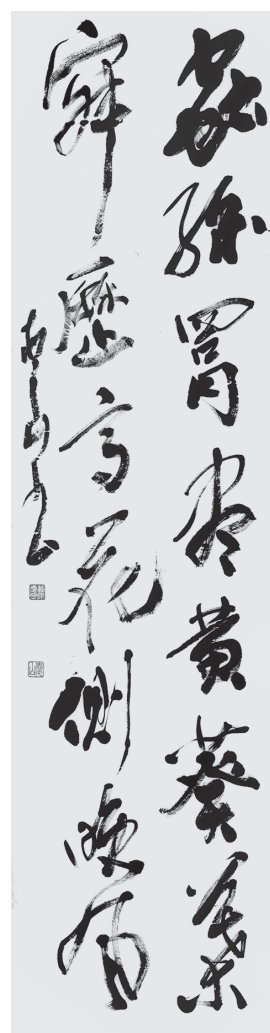
新書 宮城 康湖 「さ夜ふけと」の文字群一つを見ても、字の大小、太細、濃淡があり、それが文全体にもあって、明るく、強く情感ある作品となった。
(審査評 東仲 遙邨)

【かな条幅】



白山 松岡 清翠 畳み掛ける力強い筆勢が魅力。潤渇疎密のバランスよく、引き締まった「かこふ秋霧」が作品を重厚にまとめている。
(審査評 川島 史子)

【漢字条幅】



観門 菅原 愛山 落款に至るまでの大胆な字形を、濃墨を駆使した潤渇と線の太細の変化で余白も生かし、活力に満ちた秀作。
(審査評 永井 香樹)

10月提出の競書の写真版全作品は、10月22日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

今月の優秀作品

書学 四
富永江蓮
晦影
歸真

書学 準六
志村望
澄懷同
止水

書学 準六
赤松佳子
澄懷同
止水

書学 準六
佐伯政子
澄懷同
止水

書学 準六
角田芳子
澄懷同
止水

書学 四
阿部京子
晦影
歸真

書学 五
宮崎慎奈
晦影
歸真

書学 準六
北江忠子
澄懷同
止水

書学 準六
上村綾子
澄懷同
止水

書学 準六
金友和
澄懷同
止水

書学 準六
佐藤愛
晦影
歸真

書学 準六
斎藤和子
晦影
歸真

書学 準六
生越五月子
澄懷同
止水

書学 準六
吉田明子
澄懷同
止水

書学 準六
若狭翠泉
澄懷同
止水

書学 準六
宮下香奈
晦影
歸真

書学 準六
松田雅美
晦影
歸真

書学 準六
加藤康晴
澄懷同
止水

書学 準六
和久津玉峰
澄懷同
止水

書学 準六
若田佳樹
澄懷同
止水

書学 準六
浦崎真由美
晦影
歸真

書学 準六
脇谷太彩
晦影
歸真

書学 準六
藤原真佳
澄懷同
止水

書学 準六
石渡祐佳
澄懷同
止水

書学 準六
若田真子
澄懷同
止水

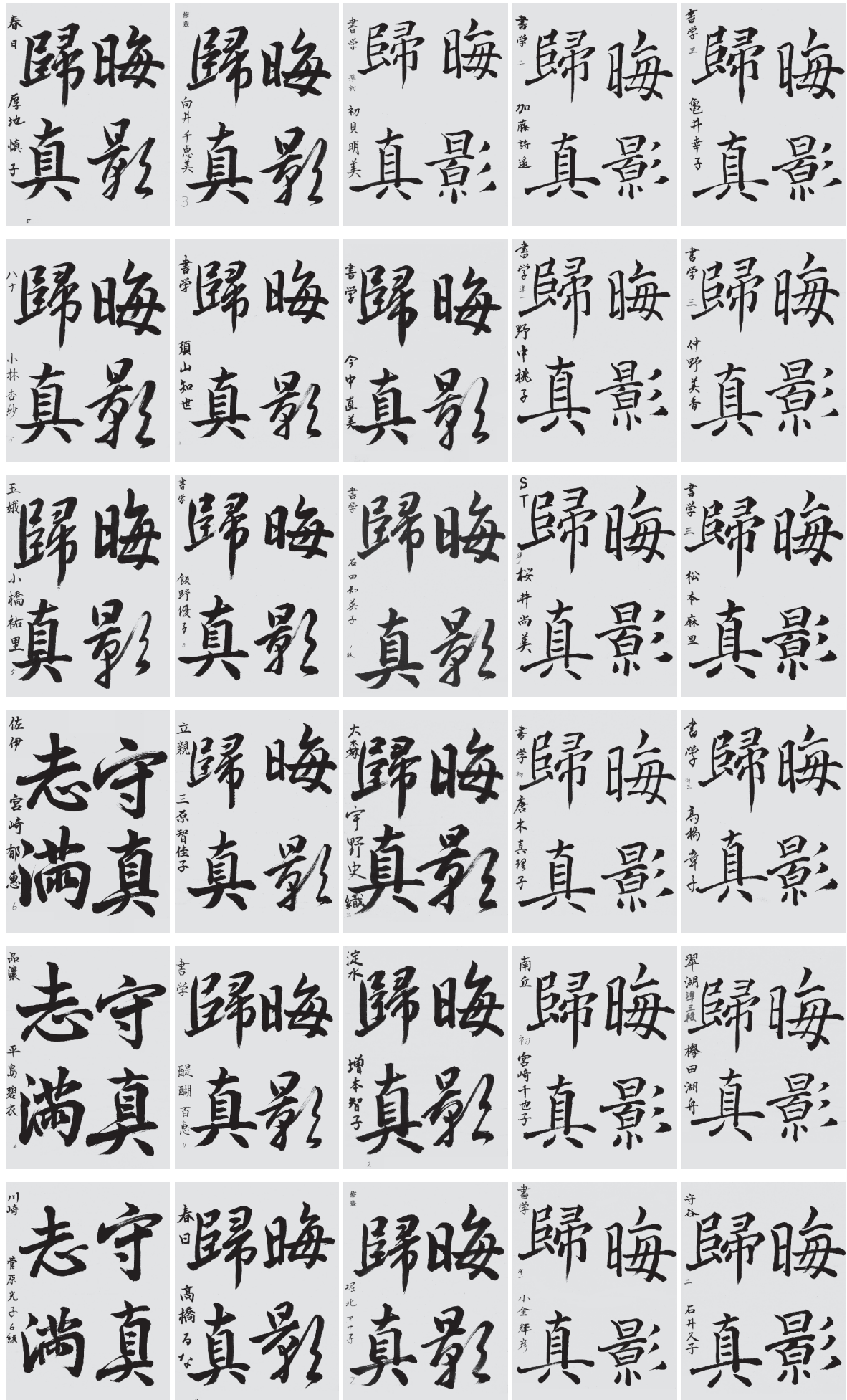
書学 準六
伊澤佳那
晦影
歸真

書学 準六
中川廣子
晦影
歸真

書学 準六
中野春瑛
澄懷同
止水

書学 準六
森二葉
澄懷同
止水

書学 準六
山崎奈緒
澄懷同
止水



守真
志満

守真
志満

守真
志満

守真
志満

守真
志満

守真
志満

蟲絲胃盡黃葵葉寂
歷高花側晚風

蟲絲胃盡黃葵葉寂
歷高花側晚風

蟲絲胃盡黃葵葉寂
歷高花側晚風

蟲絲胃盡黃葵葉寂
歷高花側晚風

蟲絲胃盡黃葵葉寂
歷高花側晚風

蟲絲胃盡黃葵葉寂
歷高花側晚風

雖世殊事異所以
興懷其致一也

雖世殊事異所以
興懷其致一也

雖世殊事異所以
興懷其致一也

雖世殊事異所以
興懷其致一也

雖世殊事異所以
興懷其致一也

秋荷一滴露

秋荷一滴露

秋荷一滴露

秋荷一滴露

若里 佐藤 亜美

書字 宮本 佳奈

書字 高杉 晶子

采女 能野 素心

九書 垣田 理恵

書字 岡田 章代

荻崎 中村みどり

山口 大嶋 真弓

YS 柳瀬佐代子

書字 細川 美帆

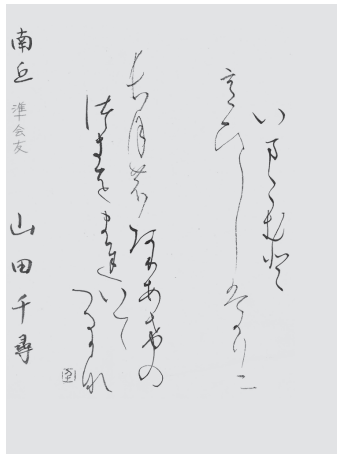
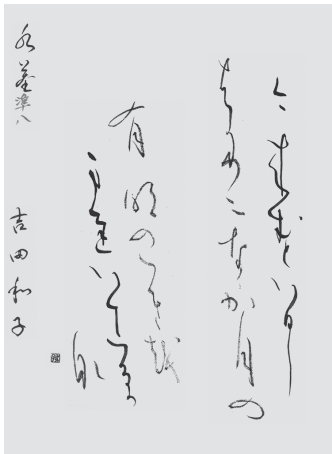
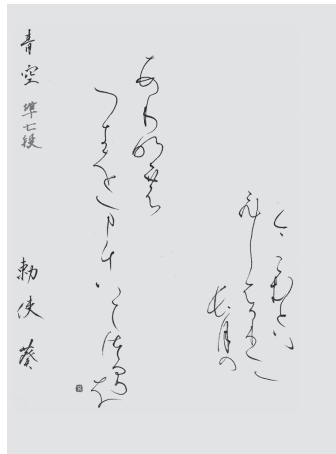
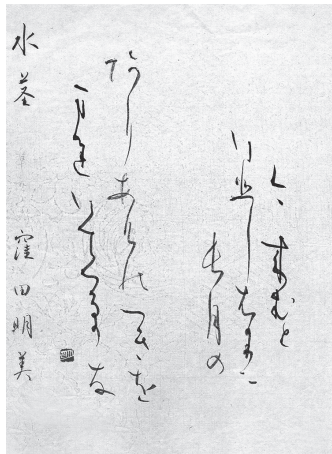
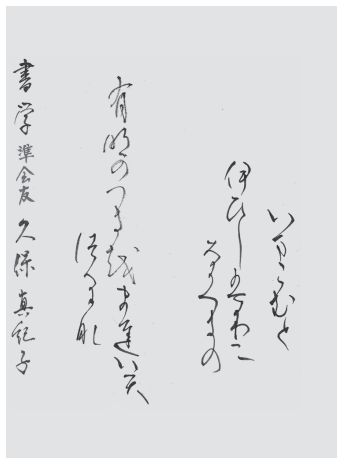
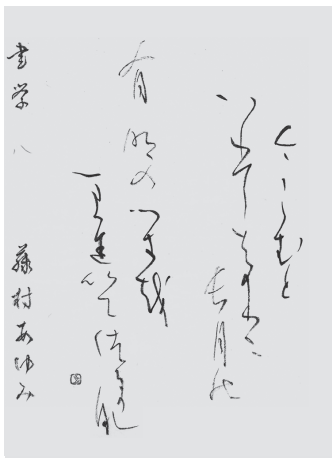
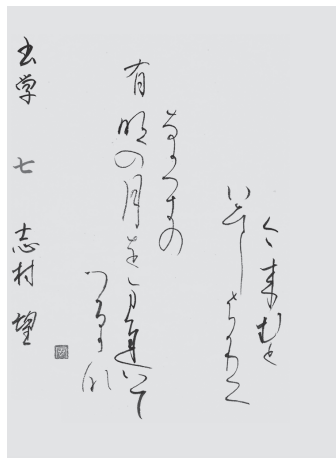
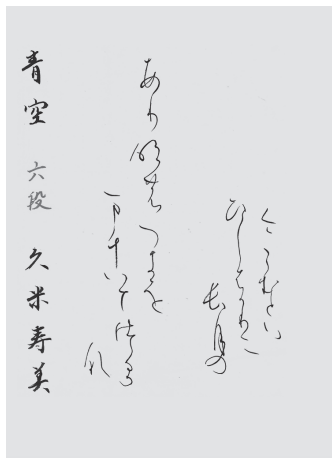
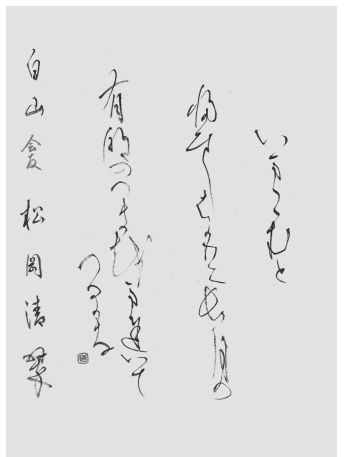
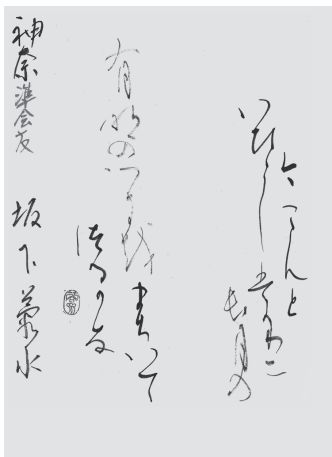
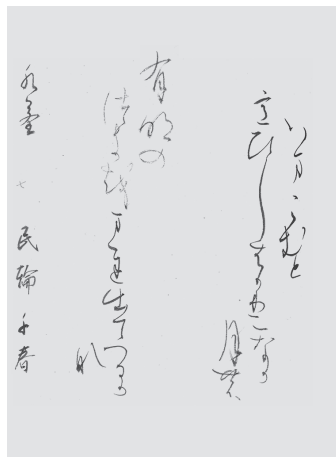
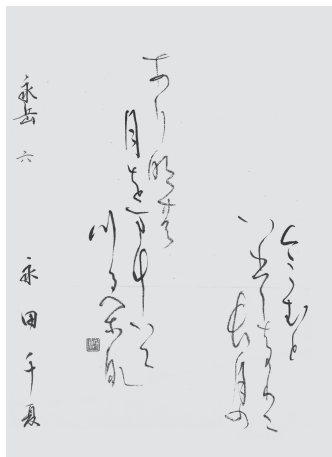
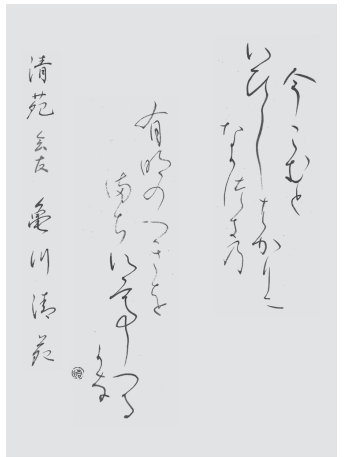
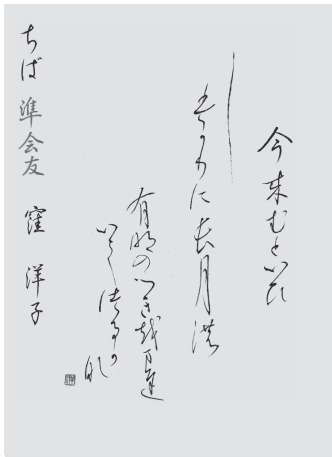
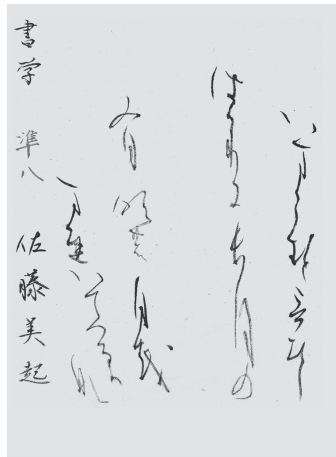
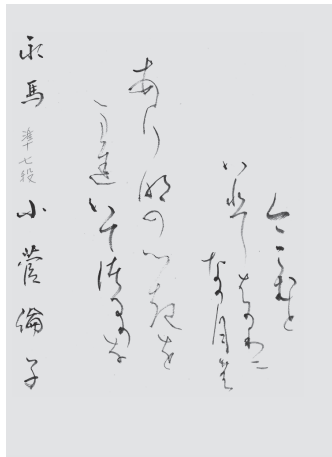
新潟 坂井 光華

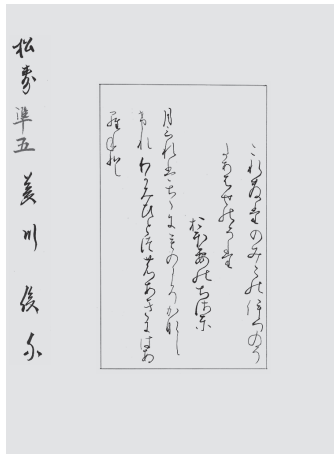
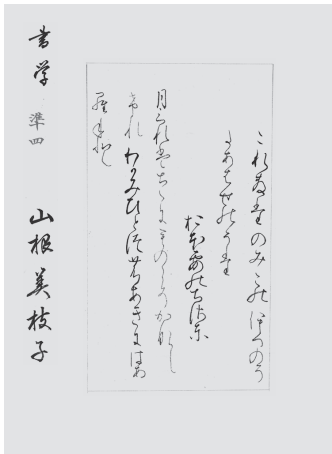
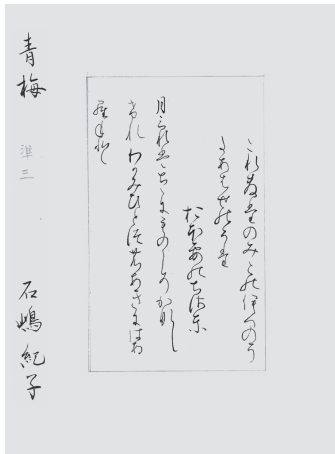
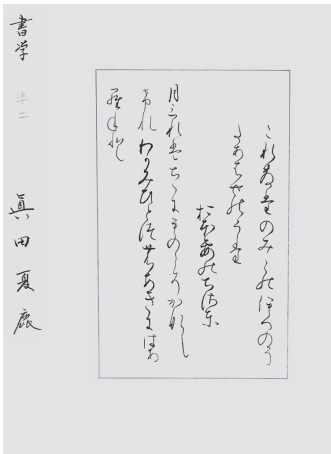
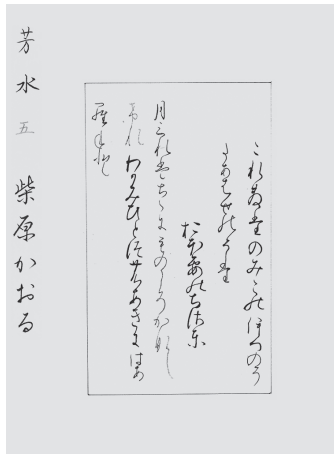
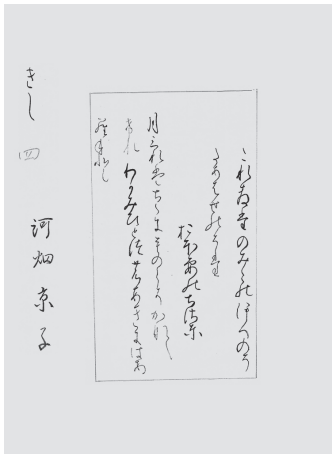
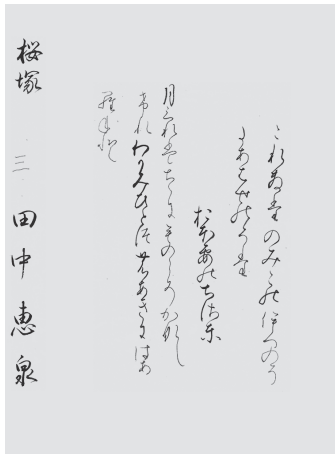
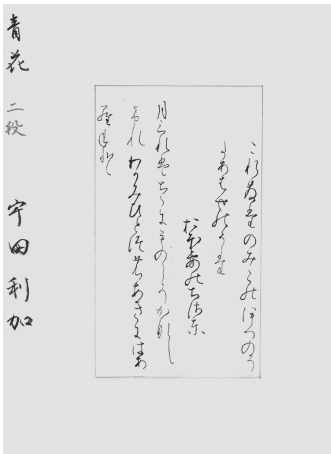
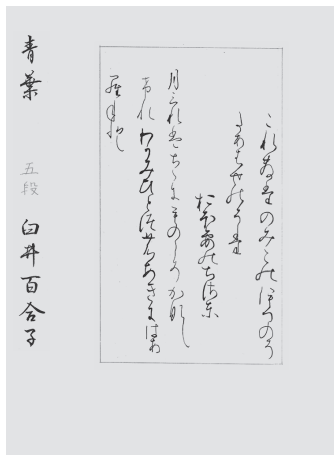
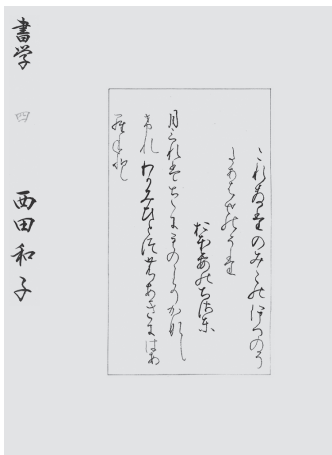
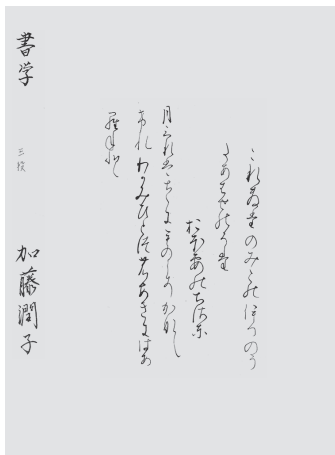
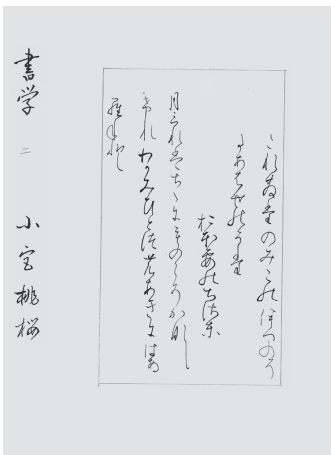
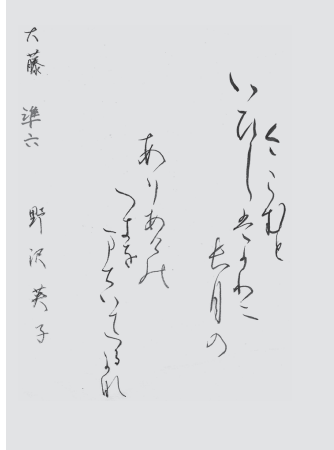
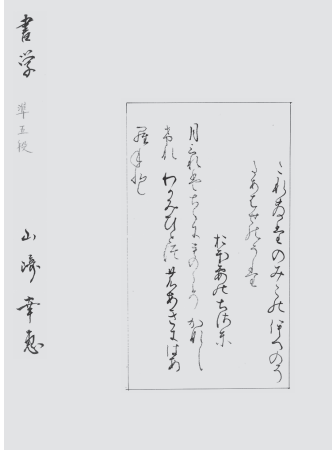
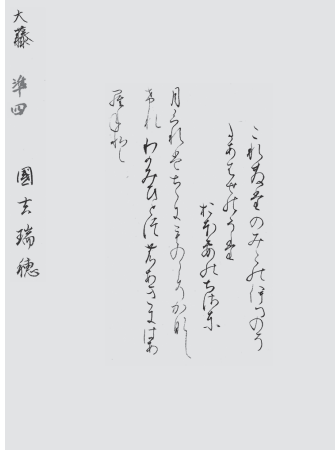
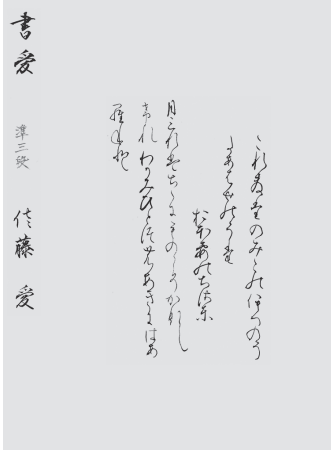
書字 佐藤 郁子

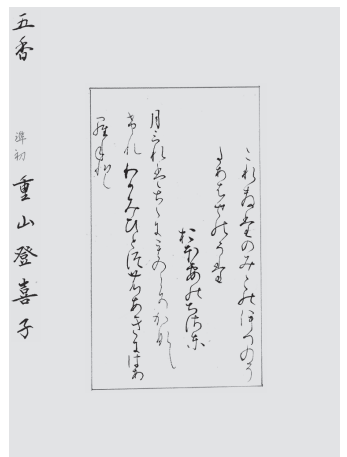
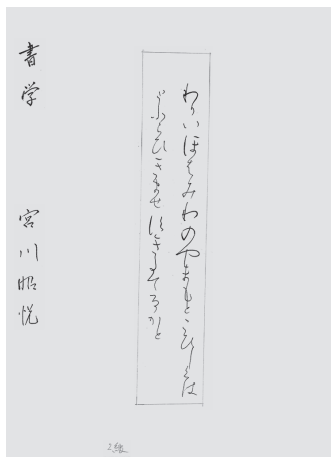
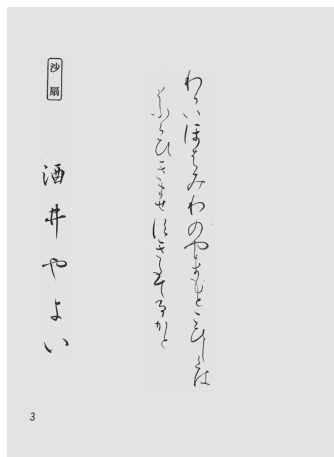
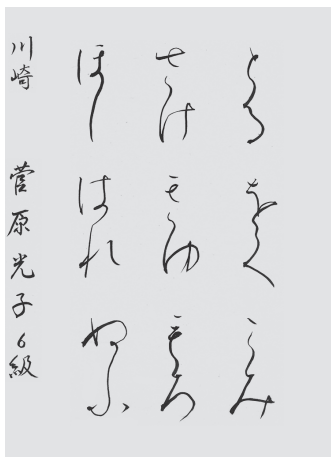
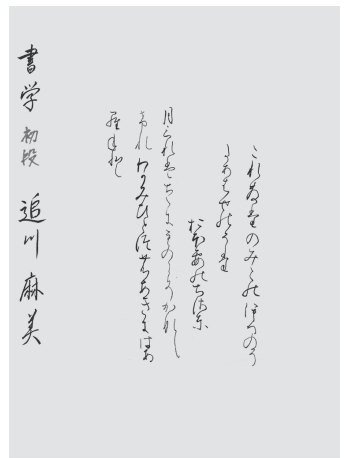
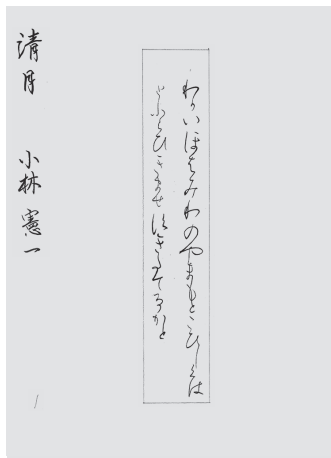
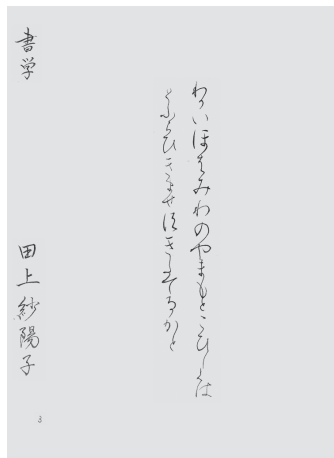
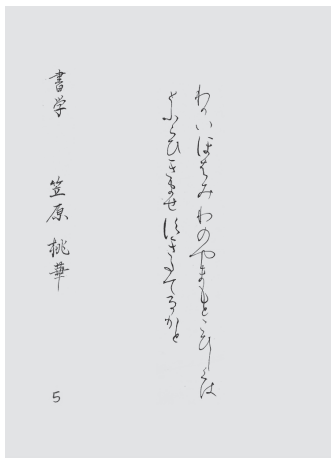
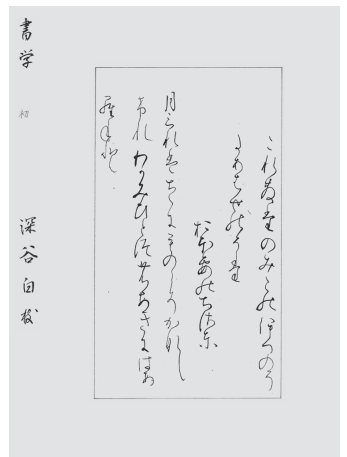
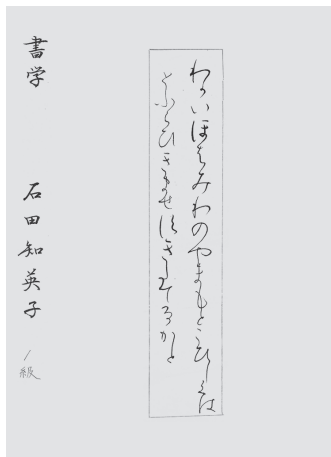
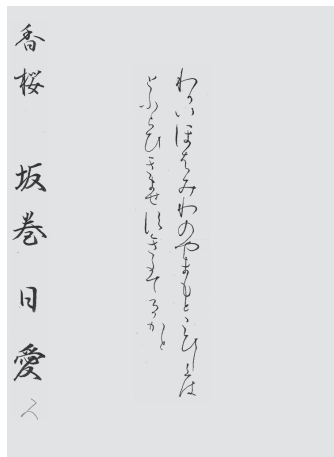
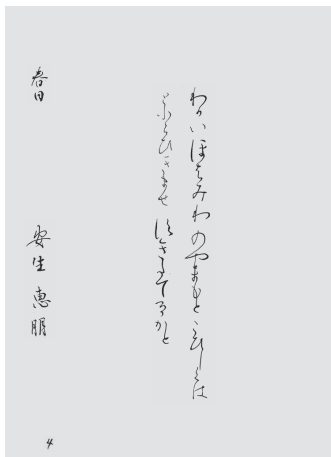
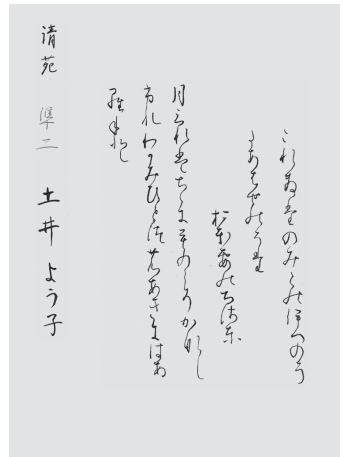
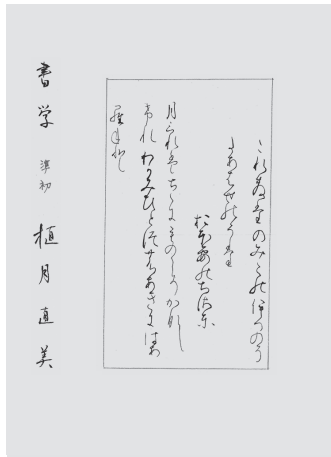
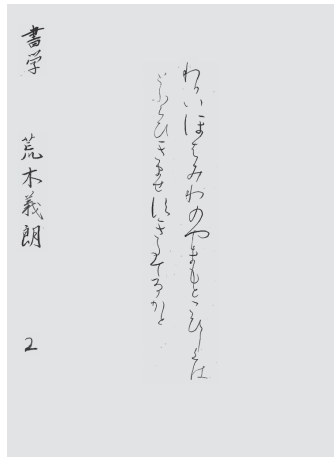
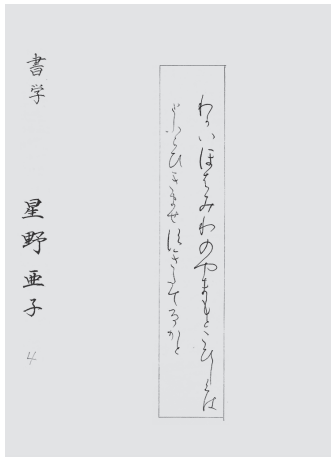
佐伊 入部 一代

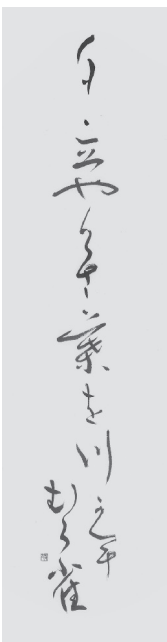
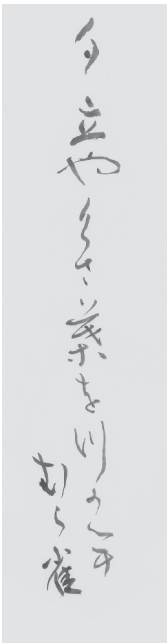
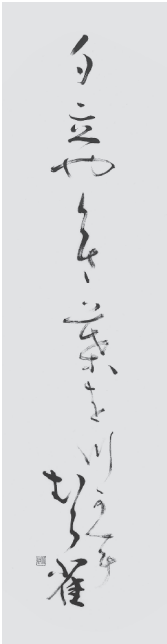
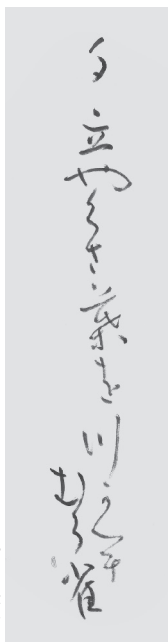
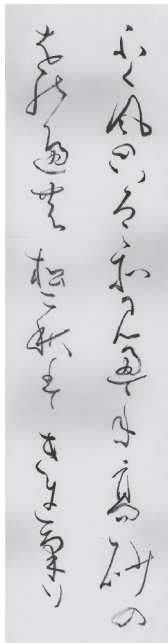
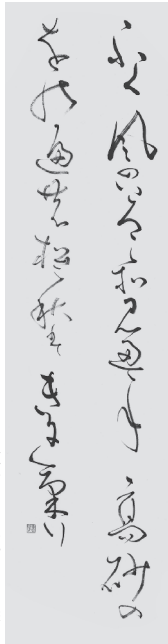
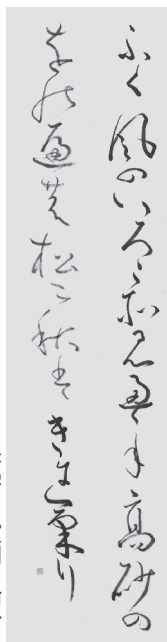
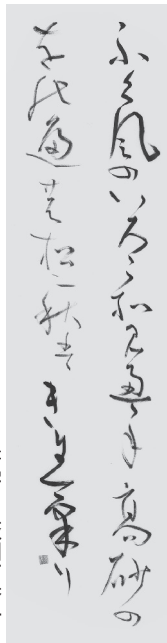
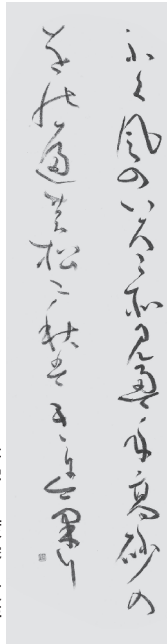
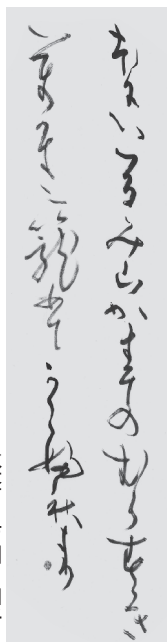
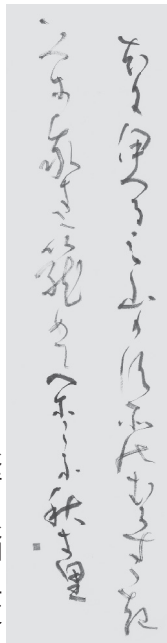
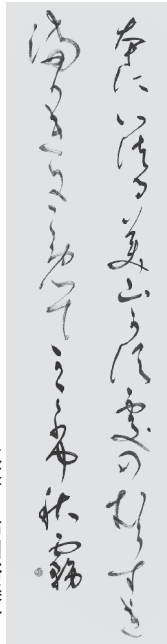
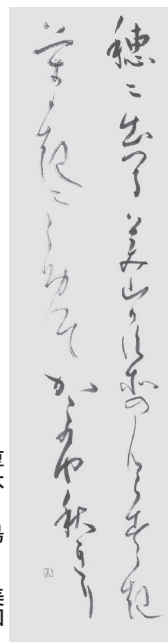
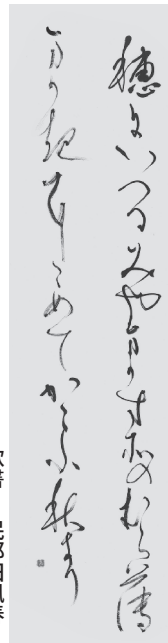
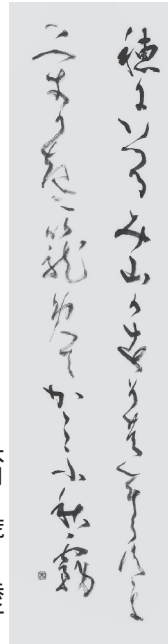
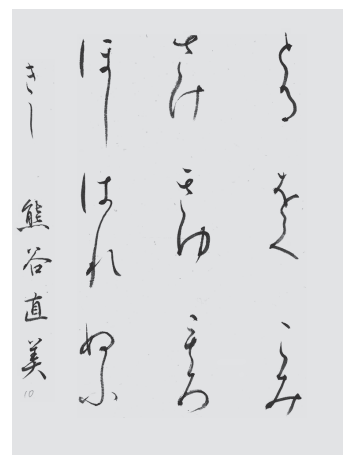
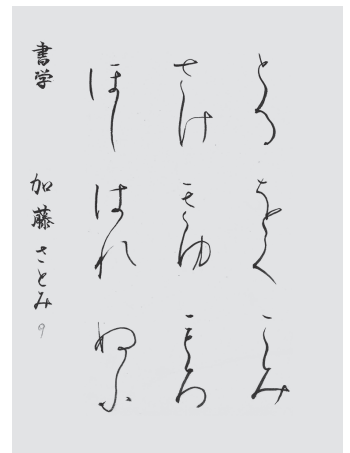
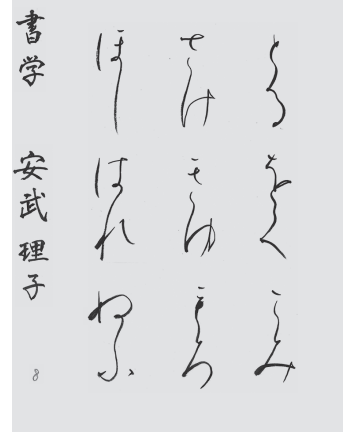
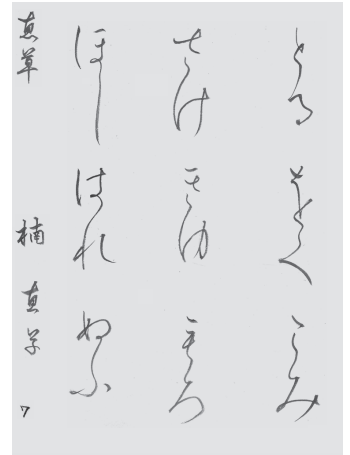
梧星 金澤 華煌

清月 小林 憲一









大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 金 吉田 和子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
水書 松井 隆雄

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
品泉 群八段 山下 千晶

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
松寿 津七段 松島 美子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
紅好 五 清水 一子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
佐賀 金 小 藤子 悦子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
伊賀 津金 尾 園子 清子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
西宮 津八 長瀬 裕美子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 六 藤村 あゆみ

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 五 雙木 育代

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
平島 和子 金 千 桑 方 彩

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
小諸 津金 花岡 梨子 弟

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
西千 七 伊 光 玉 愛

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 六 及川 理佳

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 津五 長野 知子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
西宮 和子 金 三 橋 五子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
九書 津金 石橋 栄子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 七 笠原 玉潮

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
安土 津六段 富江 日輝

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
仙水 津五 筋野 仁春

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
天沼 津金 坪 谷 貞子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
にじ 八 扇島 仰 音

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
書 津七 大野 真理子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
和月 津六 市川 知子

大空に
燃ゆる火の山
仰ぎ見つ
茅萱わけ行く
阿蘇の裾原
八雲 四段 平田 由香里

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学
古里和子

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学
永野寛之

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
江本真理子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
江本真理子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
江本真理子

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学
菜山敬子

温泉湧く
谷の底より
初嵐
八幡
本松真奈

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
加藤詩逸

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
竹中奈和

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
田本亜沙子

温泉湧く
谷の底より
初嵐
大楠
園井真希

温泉湧く
谷の底より
初嵐
修登
向井千恵美

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
唐木真理子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
草扇
二奥野隆子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
清水有紀

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学
時田聡子

温泉湧く
谷の底より
初嵐
きー
岩田八重子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
清和
氏名有希子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
加茂
二石黒裕花

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
祥瑞
三萩原奈

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学
笠原桃華

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学
石田和英子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
書学
山口礼新

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
永岳
島田佐知子

ゆるやかに
捲きたる
渦に流れ
入る
川よりの
子が投げし
撫子
月倫
並木蓮月

温泉湧く
谷の底より
初嵐
墨崎 春名 邦彦

温泉湧く
谷の底より
初嵐
ST 桜井 尚美

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学 安武 理子

温泉湧く
谷の底より
初嵐
書学 六原 華映

温泉湧く
谷の底より
初嵐
きー 熊谷 直美

さ夜ふけとや澄む月は
妙高の頂雲の上をたゆたふ
桃林 斎藤 江葉

さ夜ふけとや澄む月は
妙高の頂雲の上をたゆたふ
水荃 大井以知子

さ夜ふけとや澄む月は
妙高の頂雲の上をたゆたふ
書学 笠原 玉蘭

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
三条 佐藤 真紀

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
加茂 西潟 春香

さ夜ふけとや澄む月は妙高の
頂雲の上をたゆたふ
こず 北田 愛美

さ夜ふけとや澄む月は
妙高の頂雲の上をたゆたふ
書学 藤井 顕子

さ夜ふけとや澄む月は
妙高の頂雲の上をたゆたふ
小諸 篠原 智巨

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
桜塚 田中 久恵

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
春水 伊達 宏子

さ夜ふけとや澄む月は妙高の
頂雲の上をたゆたふ
にじ 尾高早帆子

さ夜ふけとや澄む月は
妙高の頂雲の上をたゆたふ
紺青 下澤 克予

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
仙水 川口 凛々

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
浜 柴崎 紗知

秋の蟬うちみだれ鳴く夕山の
樹蔭にまば雲のゆく見ゆ
書学 高橋 章子

佛土有世界名曰極樂其土有佛号阿弥陀
今現在說法舍利弗彼主何故名爲極樂其
國衆生无有衆苦但受諸樂故名極樂又舍
利弗極樂國土七重欄楯七重羅網七重行
樹皆是四寶周匝圍繞是故彼國名爲極樂
又舍利弗極樂國土有七寶池八功德水充
滿其中池底純以金沙布地四邊階道金銀
瑠璃頗梨合成上有樓閣以金銀瑠璃頗
梨車渠赤珠馬瑙而嚴飾之池中蓮華大如
車輪青色青光黃色黃光赤色赤光白色白
光微妙香潔舍利弗極樂國土成就如是功
德莊嚴

書学 細川 美帆

佛土有世界名曰極樂其土有佛号阿弥陀
今現在說法舍利弗彼主何故名爲極樂其
國衆生无有衆苦但受諸樂故名極樂又舍
利弗極樂國土七重欄楯七重羅網七重行
樹皆是四寶周匝圍繞是故彼國名曰極樂
又舍利弗極樂國土有七寶池八功德水充
滿其中池底純以金沙布地四邊階道金銀
瑠璃玻璃合成上有樓閣以金銀瑠璃玻
璃碑磬赤珠瑪瑙而嚴飾之池中蓮華大如
車輪青色青光黃色黃光赤色赤光白色白
光微妙香潔舍利弗極樂國土成就如是功
德莊嚴

佐野 千葉 悦子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

Y S 柳瀬佐代子

佛土有世界名曰極樂其土有佛号阿弥陀
今現在說法舍利弗彼主何故名爲極樂其
國衆生无有衆苦但受諸樂故名極樂又舍
利弗極樂國土七重欄楯七重羅網七重行
樹皆是四寶周匝圍繞是故彼國名爲極樂
又舍利弗極樂國土有七寶池八功德水充
滿其中池底純以金沙布地四邊階道金銀
瑠璃頗梨合成上有樓閣以金銀瑠璃頗
梨車渠赤珠馬瑙而嚴飾之池中蓮華大如
車輪青色青光黃色黃光赤色赤光白色白
光微妙香潔舍利弗極樂國土成就如是功
德莊嚴

玉川 山田 恒子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 桑原 実香

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

ちば 吉村 まさ子

規定 「晴雲秋月」

審査評―秋山 凌雲

教習名	書 学	氏 名	高 橋 瑞 菜
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	M M	氏 名	芳 賀 勲 多
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	金 子	氏 名	金 子 シ ゲ 子
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	水 茎	氏 名	日 和 彩 泉
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	こ ま	氏 名	植 田 玉 苑
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	九 重	氏 名	長 谷 川 裕 美
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	宮 上	氏 名	古 屋 信 子
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

教習名	伊 賀	氏 名	山 口 智 代
長谷川	服部	浜田	原口
平井	平野	広瀬	福井
藤山	深谷	布施	船田

書学

石井 孝夫



均整が取れた細く力強い線が太
枠と美しく調和している。引首
印として実用性にも優れた作で
ある。

書学

嬉野 満利子



墨だまりが筆意と深い味わいを
生む楕円の変型印。外郭をもう
少し残した方が、より安定感が
増したであろう。

書学

宮城 康湖



満白と朱白相間を効果的に取り
入れ、外郭のように見える朱の
残し方が絶妙である。構成の巧
みさが光る作。

島田

田村 潔



章法に優れ、全体のバランスが
美しく保たれた作。右外郭の切
り方が等間隔になってしまった
点が惜しまれる。

随意 「雅人深致」

規定

(霹)

大部分が草書体での出品でした。最近では墨色の汚い作が目立ちます。



審査評—立川 井梧

九書 長谷川裕美

大胆な墨量と、極端な筆の開閉による線の強弱の変化の表出は、明と暗をはっきりさせ立体感を引き出した。余白との関連も面白い作。

兵庫 絹川 佳苑

筆圧に俯仰のリズムを与えた線は、方向、長短の強さの変化を見せ多様である。動きに冴と躍動感を窺える。再考は終筆部分の重さ。

伊賀 石田 春代

淡墨表現で清く思いつきよい作。その字形は偏と旁が柔剛となる表現の面白さにある。ただし、淡墨の平面的な表情は軽くなり易いので一考。

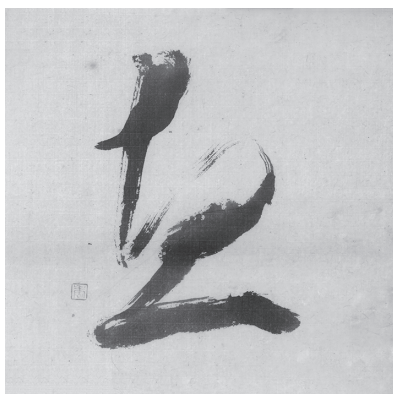
書学 木村 香織

硬い筆が特徴の篆書体である。その文字構成は随所に接筆による線の組み合わせの呼吸をもつて成り立っている。荒々しく目立つ表現の作。

随意

(ゑ)

「ゑ」の平がながいですが「ゑ」の表現にてこずるようです。



審査評—立川 井梧

望水 辰巳 望水

漢字「恵」の気風は、惑いなく安定感に勝る。左傾斜は気掛かりも三面目以降の運筆の気運は印象よい。墨色に濃淡の変化を求めたい。

九書 垣田 理恵

中央部に位置した平がなゑの形態は、下部に重厚な線を据え置き安定させ、上部の高さを支えるタワー構想。作意を感じる魅力的だ。

東備 延本 百世

長鋒筆の魅力は、細線の柔らかな味わい深い線と渴筆の線の表情にある。この作は、筆圧をかけ過ぎないところに線質の変化を見せた。

九書 山内 静香

用紙は二番唐紙。墨色は少し薄くてもよい。字形は軽妙で自然で好感もてる。運筆の速度、筆圧の変化良好も、途中線が飛んでしまった。